

# (株)熊平製作所におけるQC検定実施事例のご紹介

株式会社熊平製作所

品質保証部

中本宏二

## 1. はじめに

(株)熊平製作所は、明治 31 (1898) 年に起業した熊平商店に端を発し、当初は国内の金庫メーカーと契約を結び、その製品を個人や企業に売る販売店でしたが、創業 6 年目には自社製金庫の製造工場を設けました。

その後、主に金融機関向けの金庫室設備など物理的に防御する「剛体製品」を主力製品として製造してまいりました。



耐火金庫



金庫扉



貸金庫

守る対象の変化、未然防止策の変化などにより、現在は入退室管理システムやセキュリティゲート、デジタル録画監視システムなどを含む、トータルセキュリティ企業へと発展し、あらゆる攻撃から人々の財産や情報を守る「安全」「安心」を提供しています。



入退室管理システム



セキュリティゲート



デジタル録画監視装置

## 2. 会社概要

- 創業 : 明治 31 年 (1898 年)
- 資本金 : 4 億 5000 万円
- 従業員数 : 481 名 (2016 年 4 月 1 日現在)
- 本社所在地 : 広島県広島市南区宇品東 2-4-34
- 主な製品 : 金庫・耐火金庫、金庫扉、貸金庫  
入退室管理システム、セキュリティゲート、デジタル録画監視システム  
など

### 3. QC 検定導入の経緯

弊社は、TQM 活動として各職場で QC サークルをはじめとする改善活動を展開していますが、改善活動の中で必要となる「ファクトコントロール」の基本的な手法についての教育ならびに各員の力量評価の仕組みがありませんでした。そこで、まずは、2013 年に品質保証部で全員 QC 検定 3 級合格を目指し、部内教育を実施して QC 検定にチャレンジしました。

その後、QC 検定による人材育成、自己啓発によるモチベーション向上など有効性を経営層や人事部門に示すことで会社の支援を受けることができるようになり、2014 年からは全社で QC 検定にチャレンジしております。

### 4. QC 検定への取り組み

QC 検定 3 級合格者数が全社員の 50%を突破することを当面の目標に設定し、年 2 回の QC 検定にそれぞれチャレンジしています。

QC 検定 3 級受検者に対しては、教育カリキュラムを組んで、「品質管理の実践」、「品質管理の手法」について集合学習を年 2 回の受検に合わせて実施しています。

集合学習の概要は以下の通りです。

- ・実施時間 毎週月曜日の定時後の 1 時間
- ・実施回数 7～8 回
- ・実施内容 テキストに基づいた講義や過去問を用いた演習  
※「品質管理の手法」を集中的に実施
- ・講師 品質保証部、生産部門から選出された指導員
- ・受講者 各部門の受講希望者



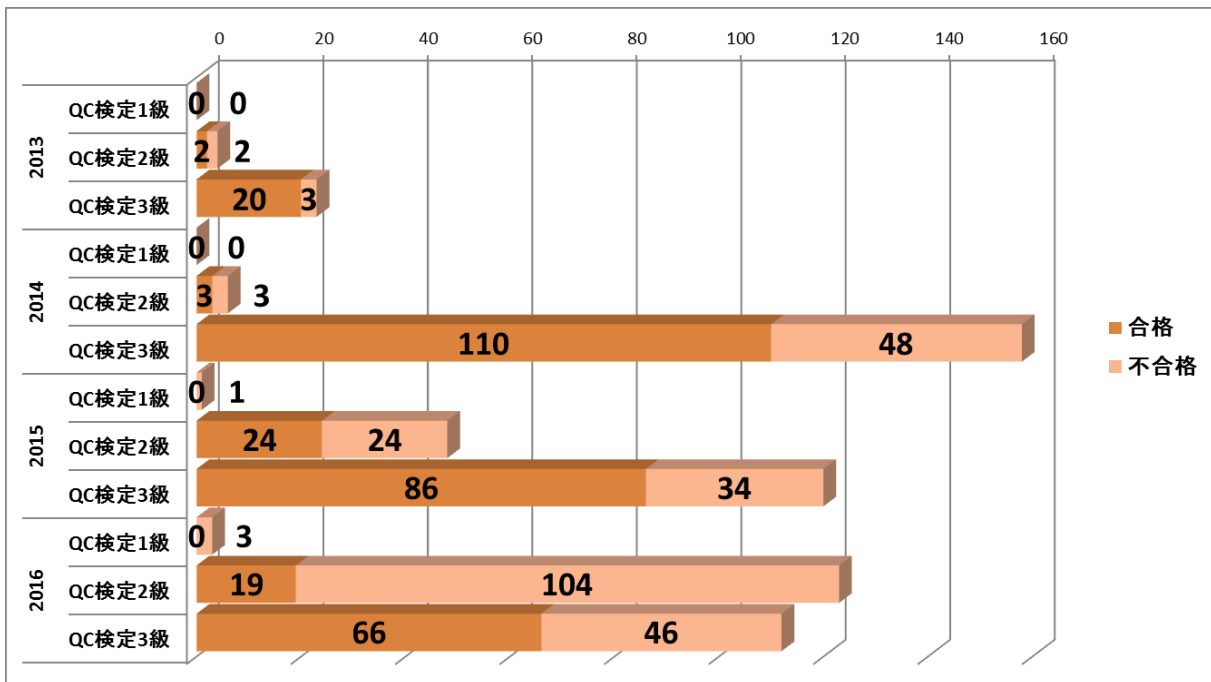
新入社員には、QC 検定センターの web ページから入手したテキスト「品質管理検定 (QC 検定) 4 級の手引き」を用いた研修内教育と上記集合学習を経て、入社年の 9 月に受検してもらっています。

また、QC 検定 2 級にチャレンジする人も年々増えてきており、2 級受検者は集合学習ではなく、個々で学習し受検日を迎えています。2 級はハードルが高いため、1 回で合格できなくても、諦めないうで再チャレンジをさせてもらえる支援を会社から受けることができます。

受検費用は、毎回、全額会社負担で、合格者には会社から級毎に設定された報奨金が支給されます。

その活動の結果、2016 年の第 22 回の QC 検定にて、QC 検定 3 級の累計合格者数が 50%を突破しました。今後は、新たに目標を設定し、さらなるスキルアップを行っていきます。

## 5. QC 検定合格者の推移



2016年10月13日時点 合格者累計 1級：0名 2級：48名 3級：282名

## 6. QC 検定合格者の声

### ■ 2級合格者 購買部門 盆子原 哲

品質保証部で始まったQC検定への取り組みが全社対象となったのを機に、購入部品の不適合品削減が課題であった購買部門でも全員で受検することにしました。結果、全員が3級以上に合格することができました。

私は、2014年9月に3級合格、2015年3月に2級合格と順調に進みましたが、その後2回連続で1級不合格となり、2級と1級のレベル差を痛感しているところです。試験対策のうわべだけの知識ではなく、より実践的に活用できる知識として習得する必要があるとわかりました。

QC検定で学習した知識は、購入部品の品質改善を取引先に指導する場合や、取引先工程能力と当社設計品質との妥当性評価を行う場合などに役立てたいと考えています。今後は1級合格を目標にチャレンジを続けて行きます。

### ■ 3級合格者 生産部門 新藤 健太

現在、機械加工を行う職場で、ほぼすべての製品の部品を加工しています。

職場で加工する一つ一つの部品に対し品質の意識を高く持つことが不可欠であり、その意識向上の為、職場全員でQC検定2・3級を受検しています。

職場の中には2級合格者も何人か出る中、個人的には3級を3回受検し、普段聞きなれない言葉や、考え方に四苦八苦しなながら、やっとの思いで合格することができました。

QC検定の学習を通して、これまで当たり前になっていた作業や、部品の加工上での不具合に対し、今までとは違った見方や考え方ができるようになり、学習した知識を活用した改善活動を行うことができています。このことはQC検定を学習した大きな成果だと思います。

今後も学習した知識を活かし、自職場だけに目を向けるのではなく、会社全体に視野を広げられるように活動を行っていきたいと思います。

## 7. QC 検定に期待すること

QC 検定受検にチャレンジすることにより、「品質管理の実践」、「品質管理の手法」を全社的に学ぶ良いきっかけとなりました。

しかし、現在はまだ合格することが目的となっており、身に付けた知識、手法を業務の中で活用するまでには至っておりません。今後、改善活動や工程能力の見える化を推進していく中で定着させていきたいと思っています。

また、既に合格した方々の力量維持を行う仕組みをどのように作っていくかが今後の課題です。QC 検定センターweb ページから力量を確認する少数問のテストが定期的に発信されれば、社内で活用できるのではと思っています。

## 8. 学生に期待すること

学生のみなさんは、今後、企業・団体などに就職され、色々な技術の修得、資格の取得などにチャレンジされると思います。修得した技術、知識を活用していくには、QC 的なものの考え方が土台（ベース）となります。そのためには、「品質管理の実践」、「品質管理の手法」を学び、身に付ける必要があります。QC 検定受検に向けて学習することは学生の皆さんにとっても有効と考えます。

将来、モノづくり、サービスの創出・提供する仕事に就かれたら、より良い製品、サービスを利用者に提供し、利用者の満足度を高める成果が上げられるよう期待します。